



今月のトピック

早めの天敵放飼で 春の害虫対策を



年が明けてまだまだ寒い日が続きますが、日中は少し暖かく感じられる日も出てきました。日射が強くなってくるとハウス内はあっという間に春になります。植物だけでなく害虫にとっても活動しやすい時期になりますので、密度が低いうちに天敵を放飼して春の害虫予防に備えましょう。

害虫の密度が低いうちに天敵放飼を

●暖くなる前に天敵の放飼を始めましょう

ハウス内の気温が上昇してくるとハダニやアザミウマ等の害虫が増えてきます。使用できる農薬も限られる中、害虫が増えすぎてしまう前に効果的に予防していききたいところです。

温度が高くなってくると害虫にとって適温となりますが、天敵生物にとっても定着しやすい環境になってくるため、**害虫密度が高くない2~3月に天敵の追加放飼をおすすめ**します。

●イチゴのおすすめ天敵資材

◎ハダニ対策

■ミヤコトップ (ミヤコカブリダニ剤)

放飼されたミヤコカブリダニが、葉裏に寄生するハダニ類を探索し、ハダニの成虫や若虫、幼虫、卵を捕食します。また、餌となるハダニ類がないときは花粉などを餌として生活し、ハダニ類を待ち伏せます。

* 規格：2,000頭/250mlボトル

* 適用害虫：ハダニ類

* 適用作物：野菜類

* 使用量：2,000~6,000頭/10a

害虫が少ないときにおすすめ



■チリトップ (チリカブリダニ剤)

放飼されたチリカブリダニが、ハダニの成虫や若虫、幼虫、卵を捕食し防除します。

* 規格：2,000頭/500mlボトル

* 適用害虫：ハダニ類

* 適用作物：野菜類

* 使用量：6,000頭/10a



◎アザミウマ対策

■リクトップ (タイリクヒメハナカメムシ剤)

放飼されたタイリクヒメハナカメムシが、葉裏や花部内に定着したアザミウマ類を大量に捕食するため、即効性が期待できます。

* 規格：500頭/500mlボトル、100頭/100mlボトル

* 適用害虫：アザミウマ類

* 適用作物：野菜類

* 使用量：1,000~3,000頭/10a



◎アザミウマ対策

■メリトップ（ククメリスカブリダニ剤）

放飼されたククメリスカブリダニが、葉裏や花部内に定着し、アザミウマ類の幼虫を捕食します。また、餌となるアザミウマ類の幼虫がいないときはイチゴの花粉を餌として生活し、花部内でアザミウマ類を待ち伏せします。

* 規格：50,000頭/900mlボトル

* 適用害虫：アザミウマ類

* 適用作物：野菜類

* 使用量：100頭/株

害虫が少ないときにおすすめ



天敵導入のポイント

●天敵導入前に圃場の環境、害虫発生状況を確認しましょう

- ①天敵が捕食する害虫が発生しているか、イチゴが開花しているかなど、圃場の状況を確認しましょう。
 - ②花数、葉の枚数などを確保しましょう。葉かき作業と天敵導入のタイミングが重なってしまいそうなときは、天敵導入前に葉かきを済ませておきましょう。
 - ③害虫の発生量が多い場合は、一度農薬を散布して害虫の密度を落としてから天敵を導入しましょう。農薬は天敵への影響が少ないものを選びます。
 - ・ハウスの入口、側面など開口部分など害虫が発生しやすい場所をチェック
 - ・害虫発生個所には、目印をつけておく
- 天敵が定着しやすい株の大きさ、開花状況になっているかチェック

●害虫発生個所、発生しやすい場所を中心に天敵を放飼しましょう

最初に害虫が発生している場所や発生しやすい場所を中心に天敵を放飼したあと、圃場全体に放飼します。緩衝材が作物の葉の上に乗るように撒くのがポイントです。

- ・マルチの上や水がかかる場所には放飼しない
- ・ボトルを強く振ったり、強い衝撃を与えない
- ・放飼する前にボトルをゆっくり回し、ボトル内の天敵生物のムラをなくす

●導入後は天敵生物に適したハウス内環境をつくりましょう

- ①不適切な高温、低温条件は、天敵の活動能力を低下させてしまいます。とくに、低湿度の環境ではハダニが増えやすく天敵生物が増えにくいので注意しましょう。天敵にとってはハウス内湿度70%以上が好ましいです。
- ②導入後1~2週間は薬剤散布を控えましょう。天敵に影響が少ない農薬や肥料の葉面散布でも天敵の数が減ってしまいます。

天敵導入には以下のようなメリットがあります。

- ① 害虫の薬剤抵抗性発達への対策
- ② マイナー作物の防除手段
- ③ 減農薬・有機栽培作物への取組み

化学農薬での防除にお困りの方は上手に天敵資材を活用しましょう！

